

広報

こだま

2023

Vol.42

【栗田病院 広報誌】

新年のご挨拶

理事長 栗田 裕文・院長 安部 秀三

創立55周年記念事業

フォーカス くりた人

地域医療連携課 精神保健福祉士 池田美友紀

広報散歩

若年性認知症支援コーディネーター



栗田病院グループ・理念 ～私達の求める姿～

私たちの使命は、患者様、利用者様、ご家族様、地域連携機関、地域住民、有朋会職員と
いったあらゆる方々の「こころ」に、温かな（ホットな）灯りをともすこと、笑顔を増やし続ける
ことです。その使命を果たすことで、以下3つの姿を実現します。

1. 医療・介護・福祉を統合した高品質のサービスを設計・開発し提供し続けている。
2. スタッフみなが有朋会の一員であることに胸を張っており、患者様、利用者様、ご家族様に
質の高いサービスを提供している。
3. 働きたい・学びたいと希望する方が絶えることなく集まってくる。



医療法人社団 有朋会
栗田病院

〒311-0117 茨城県那珂市豊喰505
TEL: 029-298-0175 Mail: yuhokai@yuhokai-kuritah.com
<http://www.yuhokai-kuritah.com/>

理事長・院長より新年のご挨拶

理事長よりご挨拶

新年、明けましておめでとうございます。今年も皆様へ新年のご挨拶が出来ますこと、とても嬉しく思います。2022年(令和四年)について振り返りますと、COVIDへの対応や、物やエネルギーのコスト上昇等々、悩ましい日々が続きました。おそらく、同じような悩みを抱えた医療機関施設様も多いのではないのでしょうか。この原稿を書いている現時点では、COVIDの感染状況の上の位置づけ(5類への引き下げ)が検討されている状況です。その行方は判りませんが、何にせよ、遠からず、通常のありふれた感染症の一つとなっていくでしょう。

2022年には、30年後を見据えた「2050 vision」を策定し、今後の方向性を明らかとしました。「2050 vision」を「絆で奏でるこころの未来」というフレーズで表しています。

また、本院の建替プロジェクト「KURITARE BORN」を開始しました。まだまだ、始まったばかりですが、2050 visionを見据えて、ありがたい、病院の姿を描き出してまいります。

様々なことが、嬉しいことも、そうでないことも諸々ございましたが、沢山の方々からのご支援や、新たな出会いや学びの機会に恵まれて、多くの実りを得ることが出来た一年でした。これも、患者様利用者様やご家族様、連携をいただいております諸機関をはじめとした地域の皆様そして有朋会スタッフの皆さん等々、沢山の方々を支えていただいている、応援をいただいているお陰です。本当にありがとうございます。



は、ますます私たちが

の生活に身近なもの、欠くことができないものとなって、医療・介護にも様々な活用されていくのだろうと、想像をしています。同時に、onlineの経験を経て、リアルな価値、人と人が実際に集う場所や機会、会って話し合うことの価値や大切さもまた、見直されたと感じます。

2023年も、両者を共に見据えながら、運営に当たって参ります。表紙に栗田病院グループの理念が書いてございます。私たちは、「患者様・利用者様・ご家族様等々、たくさんの方々の」ここに、温かな(ホットな)灯りを灯すこと、笑顔を増やし続けること」を使命としています。今年も引き続き、その使命を全うし、「絆で奏でるこころの未来」を目指していく所存です。

2050 visionを目指し、理念を実践する歩みの中、全く平坦な道ではないように、これからは様々なことが(嬉しい)ことが沢山、そうでないものも、もしかするとあるでしょう。そして、俯いて下ばかり向いていても、笑顔は生まれません(使命を果たせません)。例えばどんな状況であろうと、栗田病院グループが目指す、その先や使命には、何ら変わりはありません。

2023年も、使命をしっかりと心に留め置いて歩み続けて、様々な経験から学び、成長し、「こころ」の未来を創造して参ります。2050 visionを目指して、KSTP(栗田病院グループ)の中長期経営計画を着々と進めて参ります。今年も皆様と手を携えながら、共に歩んでいきたいです。ご指導、御鞭撻の程、よろしくお願ひ申し上げます。皆様にとつても、素晴らしい1年でありまして、誠にありがとうございます。

本年も、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。
(理事長 栗田裕文)

院長よりご挨拶

新年明けましておめでとうございます。素晴らしい年となるよう皆様とともに新年を迎えたいと思います。院長としてより一層気持ちを引き締めて運営していく所存です。どうぞよろしくお願ひいたします。

新型コロナウイルス感染症は今年で4年目を迎えること

創立55周年記念事業

創立55周年を記念して、記念式典・症例研究発表会・記念講演会が行われました。コロナ禍であったため52周年記念事業以降はリアルでの開催を中止としておりましたが、今回はしっかりと感染対策を講じた上で約3年ぶりのリアル開催となりました。

記念式典 令和4年11月8日(火)

開会の言葉
理事長挨拶
永年勤続表彰
閉会の言葉



【永年勤続表彰(30年)】
就労継続支援B型事業所 Work Work 関澤彩美
精神療養病棟 大高久佳

症例研究発表会 令和4年11月8日(火)

当法人では、医療者としてのスキルや知識の向上を目的とし、日々の業務での経験や統計データをもとに症例研究を行い、その成果をまとめ創立記念事業にて発表しています。

発表会では病院長やスタッフより活発な質問や意見交換も行われました。より優秀な研究発表には優秀賞も贈られます。講師として、茨城県立医療大学保健医療学部 看護学科 准教授の糸嶺 一郎先生にお越しいただき、研究発表の講評と優秀賞の選出もしていただきました。

【研究発表題目】

発表者	題目
星さやか	主体的に変化する場としての自立訓練プログラムの在り方
江橋友香	精神科急性期病棟における褥瘡対策の強化
中西ちひろ	認知症高齢者グループホームにおける看取りと今後の展開
内藤利江	口腔ケアの定時業務化による職員の意識向上を図る
小橋昌樹	気分と音楽の関係性についての検証 〜同質の原理の臨床的利用を目指して〜
飛田陽	ブリーフインターベンションを用いた節酒プログラムの運営と今後の課題



になります。昨年年末からは第8波と今年になり季節性インフルエンザも合わせた流行の対応となっております。感染症対策は個々の医療機関がまずは主体的に尽力すべきであり



ですが、他方では地域ごとに総合病院を中心として地域の医療機関が面として連携していく必要があります。

当院の動きとして、2021年11月県より認可を受けたアルコール関連障害「専門医療機関」については、次第に地域で認知されつつあり外来の問い合わせが増えてきています。また2021年の10月より毎週木曜日の一般救急当番病院を担当していますが、夜間入院件数が想定以上です。このことは地域ではまだ十分対応できていない、精神的な病態や疾患に悩む方々が少なくないことを示しており、このような対応を続けていくことは、当法人の理念「あらゆる方々の」ここに、温かな(ホットな)灯りをとますこと、笑顔を増やし続けることです。」に合致する取り組みと考えています。

2022年4月の診療報酬改定があり、精神科救急の充実、難治性の病態に対してクロザピンなど積極的治療の推進、地域のかかりつけ医療機関と精神科医療機関との連携など将来の「精神障害」にも対応した地域包括ケアの実現といった課題に関して診療報酬からも推進する改定であり、当法人でもこれらのことについて対応しているところであり、今後とも当該地域の精神的な課題に対して医療機関、医師会、自治体、関係団体などと連携をとりながら積極的に取り組んでいきたいと考えております。

多くの専門職種の力を結集し、当法人が精神科医療機関としてより一層信頼される法人となるよう取り組んでいきたいと思ひます。職員各々の日々の自己研鑽や地域の方々との連携、対話に努めつつ、これまで以上に柔軟な発想のもとさまざまなニーズに対応できる法人を目指し取り組んでいきます。ぜひ本年もよろしくお願ひ申し上げます。
(院長 安部 秀三)

○優秀賞

今回優秀賞に選ばれたのは、「気分と音楽の関係性についての検証〜同質の原理の臨床的利用を目指して〜」を発表した、訪問看護ステーションの小橋昌樹さんでした。小橋さんにはその努力を称え、賞状と副賞として賞金が贈られました。



記念講演会 令和4年11月22日(火)

今年度は茨城県精神保健福祉センター・センター長の佐々木恵美先生にお越しいただき、「茨城県の精神保健医療〜精神科救急と依存症について〜」と題して講演いただきました。佐々木先生は、当院で常勤医としての勤務経験もあり、とても馴染みの深い先生でいらつしゃいます。現職とともに、筑波大学医学群臨床教授、精神科臨床のほか、大学生のメンタルヘルス支援、産業保健活動にも長年従事され、多方面にて大変ご活躍されています。

今回のご講演は、茨城県の救急医療や依存症治療に関する現状を分かりやすくご説明いただき、今後当グループが担うべき役割を考える機会となりました。本講演を参考に、患者様一人ひとりに寄り添った治療やサービスが提供できるよう日々の業務から意識して取り組んでいきたいと思ひます。



フォーカス くりた人



地域医療連携課
精神保健福祉士 池田美友紀

手伝いをさせていたことも心掛けています。易怒性が強い方や感情のコントロールが苦手な患者様との関わり方に悩むこともあり、その行動だけに着目し易怒性の強い方」と判断するのでなく、ご本人が抱えている不安感や行動の背景、成育歴等に目を向け、その方を少しでも理解できるように時間をかけて関わるようにしています。患者様のすべてを理解することは出来ないと思いますが、理解しようとするのが重要だと思いでこれからは患者様と向き合う時間を大切にしていきたいと思っています。

現在の職種を目指したきっかけ

これといった理由はありませんが、漠然と人の役に立つ仕事をしたいと思っていました。心理学に興味があり、進路を決める際に精神保健福祉士を知りました。大学の講義で心理学や精神医学を学ぶうちに、精神疾患という疾患をより理解したい、と言う気持ちで芽生え、精神疾患をお持ちの方々の支援に携わりたいと考えるようになりました。もともと、小児・思春期の精神疾患の方々の支援する職に就きたいと考えていましたが、大学の教授から「精神分野の支援をするなら、まずは成人の精神疾患の治療を知ることが大切。」と提案をいただき、精神科のケースワーカーを目指すようになりました。現在の部署では幅広い年齢層の方々の支援をさせていただいており、貴重な経験をさせていただいています。

他職種・関係機関との連携・繋が

地域医療連携課では、医師や看護師、事務職員等との連携も重要だと思っています。患者様からの相談があれば医師に相談・確認を取り返答し、受診が必要であれば看護師・事務職員と連携を取り調整をしています。自職種では見えてこない視点を他職種の方から教えていただくことが多く日々勉強さ



これからの目標

精神保健福祉士として勤務して3年目になりますが、日々の業務の中で自分自身の課題があると感じることが多く、未熟さを痛感しています。経験することが成長の近道だと思い、臆さず何事にもチャレンジしていきたいと考えています。「相談してよかった」「不安な気持ちが楽になった。」と思っていただけでいい、患者様に寄り添った支援を心がけていきたいと思います。当院では高校生から老年期の患者様まで幅広い年齢層の患者様を対象に診療を行っています。どの年齢層の患者様にも正しい知識を持って支援に当たることができるよう、研修等に参加し知識の向上に努めていきたいと考えています。プライベートでは最近ハッピーにハマっている、飲み比べをしてリラクゼーションする時間も大切にしていきたいと思っています。

本インタビューは下記から動画にて閲覧可能です。



せていただいています。関係機関との連携、繋がりに関しては、患者様からの電話相談や診察時に不調な様子があれば関係機関と連携をとり、見守りをお願いすることもあります。必要時にはカンファレンスを実施し、ご本人の思いを関係機関と共有したり方向性の統一を図ることもあります。カンファレンスでは患者様の地域での生活の様子が見えてくるため、新たな面を知る機会にもなり重要であると感じています。早急に医療に繋げる必要のある患者様からご相談をいただくこともあり、現在多くの患者様からご予約をいただいております。早急に対応が必要な患者様に関しては、キャンセル待ちとして対応させていただきます。ご迷惑をおかけしておりますが宜しくお願いいたします。

広報散歩

『若年性認知症支援コーディネーター』

今回は当院で力を入れているサービスの一つを紹介いたします。今回お話をしてくれたのは、若年性認知症支援コーディネーターとして、さまざまなサポートを提供しているおふたりです。

若年性認知症支援コーディネーターの委託を受けました

65歳未満で発症する認知症のことを「若年性認知症」と言います。若年性認知症患者は、全国で約35万人いると推計されています。(R2・3月現在) 国の認知症施策推進大綱の具体的な施策の一つに「若年性認知症の人への支援」が位置付けられており、都道府県(一部指定都市)ごとに、若年性認知症のご本人様とご家族様等からのワンストップの相談窓口を設置し、若年性認知症支援コーディネーターを配置しています。



若年性認知症コーディネーター
左:井上博美 右:鳥羽田真利

これまで茨城県の若年性認知症相談窓口は、筑波大学附属病院に若年性認知症支援コーディネーター1名のみでしたが、今年度から県より委託を受け当院認知症疾患医療センターでも若年性認知症支援コーディネーターを2名配置し、若年性認知症相談窓口を設置しています。

若年性認知症支援コーディネーターの役割や仕事内容

若年性認知症支援コーディネーターとは、若年性認知症のご本人様やご家族様、支援関係専門職、事業者等からの医療や福祉サービスなど、生活全般にわたる相談対応や支援を行う専門職です。

やりがいを感じる時、大切にしていること

若年性認知症は、仕事や子育ての現役世代での発症のため、ご本人様の就労継続の問題や、子供の教育費等の経済的な部分も含めご家族様の生活への影響が大きく、高齢者の認知症とは異なる悩みや課題を抱えています。また、配偶者が主介護者になることが多く、介護負担が大きくなる傾向があります。

そうしたご本人様やご家族様の置かれている多種多様な状況と複雑な気持ちに寄り添い、今後の安定した生活を共に考えるなど不安軽減に努め、孤立防止、自信回復に繋がることを意識し、面接では明日への希望が見いだせるような言葉かけや姿勢を大切にしています。認知症の進行により「できなくなっていく」ことに視点が向いてしまっている方が多いですが、ご本人様やご家族様、その方の置かれている環境も含めて「できている」(強み)ことを探す引き出すような発想の転換もするようにしています。若年性認知症のご本人様とご家族様から「会うと元気が出る。パワースポットです。」との言葉をいただいた時、ご本人様やご家族様が新たな挑戦をした時にとても嬉しく、やりがいを感じております。

今後の展望

今後は、地域の若年性認知症自立支援ネットワークの構築や社会参加活動のための居場所づくりに力を入れていきたいと考えております。具体的には、地域に出て普及啓発活動を行い関係機関との連携を上げ、早期診断・早期治療の促進をしていきたいです。そうすることで、症状の進行予防やご本人様自身でこれからの人生の選択とそれに

相談窓口の設置

認知症と疑われる時期から相談が可能です。
“あれ?”と思ったらぜひご相談ください。
○電話またはEメールでご相談ください…まずはお問い合わせください。
○訪問相談…ご自宅に伺ってご相談に応じます。
○来所相談…病院にお越しいただきご相談に応じます。

名称: 栗田病院若年性認知症相談窓口
住所: 茨城県那珂市豊喰505 (栗田病院内)
TEL: 029-295-0005
Email: jakunen@yuhokai-kuritah.com
相談日時: 月～土 (祝日、年末年始を除く) AM9:00～PM5:00
※相談料・訪問にかかる交通費は無料です。(別途、通話料がかかります)
※面談は要予約、個人情報・秘密等は厳守します。



対する準備ができるような支援へ繋がっていきたいです。また、地域の支援者と協働し、ご本人様やご家族様が気兼ねなく集え、交流できる場や社会参加ができる場づくりをしていきたいと思います。ゆくゆくは、栗田病院が若年性認知症のご本人様とご家族様、支援者等の関係者の皆様が安心して相談できる場所となり、若年性認知症となってもご本人様やご家族様がこれまでの生活や大切にしてきた事を継続できるように地域社会づくりに貢献していきたいです。

診療案内

外来担当医一覧表

	診察室	月	火	水	木	金	土
午 前	1 診	栗田	疋田	安部	栗田	鈴木	水挽
	2 診	安部	高橋	堤	木滝	堀	第2週 鈴木 第3・5週 吉川
	3 診	堤	早坂	木滝	増本	疋田	佐々塚
	5 診	須能		水挽	富野	翠川	富野
午 後	1 診	栗田	佐々塚	安部	栗田	鈴木	水挽
	2 診	安部	高橋	木滝	木滝		
	3 診		早坂	須能			
	5 診	隔週 藤沼					

初めての外来受診・入院を希望される方へ

1. 電話で患者様の情報や現在の状況をご相談下さい。

2. 次にケースワーカー（相談員）が詳しい話を伺い、その後ご予約をお取りします。

※現在他病院を受診している、もしくは受診していた場合は紹介状が必要になります。

※当日の状況により、予約内容が変更になる場合がありますので予めご了承ください。

■ = 内科

受付時間 8:30～11:30 / 11:31～16:00
診察時間 9:00～ / 13:30～
*精神科外来は完全予約制になります。
*当日のご予約は行っておりません。前日までにご予約をお願い致します。
予約電話対応時間 月～土（祝日を除く）9:00～17:00 TEL.029-298-0175

関連施設

サテライトクリニック

「こころのクリニック水戸」 〒310-0801 茨城県水戸市桜川2-5-15 TEL.029-231-0150 FAX.029-231-0152

障害福祉サービス事業所 自立訓練(生活訓練) ショートステイ

「くりの実」 〒311-0117 茨城県那珂市豊喰505 TEL.029-295-1834 FAX.029-353-2223

障害福祉サービス事業所 グループホームくりの木

「第1くりの木」 「第2くりの木」 〒311-0117 茨城県那珂市豊喰1152-1 TEL.029-295-7652
「第3くりの木」 〒311-0117 茨城県那珂市豊喰1152-1 TEL.029-295-7680 FAX.029-295-7681
「くりあん」 〒310-0004 茨城県水戸市青柳町3429-2 TEL.029-231-2280 FAX.029-231-2281

就労継続支援B型事業所

KURITAワークサポートセンター
「Work-Work」 〒310-0004 茨城県水戸市青柳町3923-5 TEL.029-231-7066 FAX.029-231-7067

認知症デイサービス

「クリクリ市毛」 〒312-0033 茨城県ひたちなか市市毛上坪1186-2 TEL.029-275-0262 FAX.029-275-0263
「クリクリ金上」 〒311-0022 茨城県ひたちなか市金上1031-1 TEL.029-271-1607 FAX.029-271-1608

小規模多機能型居宅介護施設・認知症グループホーム

小規模多機能ホーム「クリクリ」・認知症グループホーム「クリクリ」
〒311-0117 茨城県那珂市豊喰140-17 TEL.029-352-0016 FAX.029-298-7750
認知症グループホーム「クリクリ田彦」
〒312-0063 茨城県ひたちなか市田彦950-48 TEL.029-275-8701 FAX.029-275-8702

アクセスマップ

